

令和５年度 第３回 鈴鹿市地域公共交通会議分科会 議事要点録

日 時	令和６年２月２１日（水）１４：００～１６：００	
場 所	鈴鹿市役所 別館第３ ２Ｆ 北会議室	
出席者	交通ジャーナリスト 鈴木 文彦（分科会長） 中部大学工学部都市建設工学科教授 磯部 友彦（副分科会長）【欠席】 三重交通株式会社バス営業部部長（乗合） 小瀬古 恵則 三重交通株式会社中勢営業所長 川端 邦裕 三重県タクシー協会 専務理事 景山 和 鈴鹿市旅客自動車協会鈴乃会会長 辻 泰生 近畿日本鉄道株式会社白子駅駅長 岡山 弘信（代理） 伊勢鉄道株式会社取締役 石野 雅美 中部運輸局三重運輸支局 運輸企画専門官 杉原 慎也（代理） 三重県地域連携部交通政策課 主事 古市 大也（代理） 鈴鹿市社会福祉協議会 会長 亀井 秀樹	

１ あいさつ

【事務局】

- ・会議は公開とし、議事要点録を後日、市 HP に公開させていただく。

【分科会長】

- ・本日の出席は委員 11 名中 10 名の出席があり、会議成立を宣言する。

２ 報告事項

（１）地域の实情に応じた移動手段確保のための手引書（案）について

【事務局】

- ・資料 1 に基づき説明。

(2) デマンド型交通実証運行事業の進捗状況・アンケート結果について

【事務局】

- ・資料2に基づき説明。

【委員】

- ・回答率が女性のほうが高かったのはなぜか。

【事務局】

- ・高齢者から無作為抽出で送付した。
- ・高齢者に占める女性の割合が男性よりも多いことも一因であり、女性の方が移動に関するアンケートに関心のある方が多いのではないか。

【分科会長】

- ・移動に関するアンケート調査をしたときに、女性の比率が高いのはどこの地域でも同じである。
- ・移動に対する課題を抱えている人も、女性が多い傾向にある。

【委員】

- ・P27「普段の外出（買い物や通院）で困っている」人が、高齢者よりも全年齢のパーセンテージが高いのはなぜか。

【事務局】

- ・移動に関して関心の高い人や、困っている人がWEBアンケートに回答いただいたことにより、全年齢の数値が高くなったと考えている。

【分科会長】

- ・高齢者と全年齢については、回答母数が異なるため、このような結果となると思われる。
- ・アンケート結果については、公表するのか。

【事務局】

- ・本アンケートは、デマンド型交通実証運行事業の地域選定の参考資料とするための設問もあることから、内容を整理した上で公表する予定である。
- ・本事業に応募いただいた地域については、個別に説明会を行っており、アンケート結果を説明させていただいた。

【分科会長】

- ・ アンケート結果において、「高齢者」と「全年齢」という表記があり、一般的には、「全年齢」に「高齢者」が含まれるものとイメージする。
- ・ 今回は、WEB アンケートの結果が「全年齢」であり、郵送によるアンケート結果が「高齢者」という表記である。
- ・ 調査方法別に、集計結果を示していることから、誰が見ても誤解が生じないように表記を工夫する等、改善いただきたい。

【委員】

- ・ 令和 7 年度以降のスケジュールを教えてください。
- ・ P27 の結果では、高齢者 1,758 人が「困っていない」と回答しているにも関わらず、予約型乗合タクシーが必要である人が一定数いることが読み取れる。
- ・ 現時点では困っていないが、将来的に免許返納を考えたときに必要だと思っている人がいるのではないか。
- ・ この結果は、クロス集計をすることにより、見えてきた部分であると思うので、可能であれば検証・分析し、ニーズ把握に努めていただきたい。

【事務局】

- ・ 令和 7 年度以降は、手引書を活用し、地域が主体となって新たな移動手段の導入に向けて取組が開始されるよう必要な支援を行う。
- ・ P27 のアンケート結果については、「今ではなく 5 年以内に必要」と回答された方がいる。

【委員】

- ・ 「将来的に必要」というのは、「利用しない」という回答が多いこととリンクしてくると思うので、丁寧に分析していただきたい。

(3) デマンド型交通実証運行事業の運行区域に対する意見聴取について

【事務局】

- ・ 資料 3-1・3-2 に基づき説明。

<鼓ヶ浦の希望運行区域に係る協議>

【委員】

- ・ 鼓ヶ浦地区から白子駅へ運送しないという理解で良いか。

【事務局】

- ・鼓ヶ浦地区の住民は、普段、白子駅周辺の商業施設や病院を主な外出先としており、現在タクシーを利用して外出している人もいる。
- ・鼓ヶ浦地区の希望運行区域内に病院やスーパーがないことから、白子駅周辺への移動ニーズが多くなっている。

【委員】

- ・地域組織から提出のあった希望運行区域が、本会議の協議結果を踏まえて一部縮小する等、修正を加えることとなるが、地域選定や地域組織との協議について、どのような調整していくのか。

【事務局】

- ・本日の協議結果踏まえて、事務局案を作成、地域に提示する。
- ・地域の希望運行区域の全てに行くことができる事業ではない旨は、募集要項や地域住民との意見交換会において事前に説明している。
- ・既存の交通機関と競合するような運行計画で実証運行を行うことはできない旨を理解いただいた上で、市と協働して実証運行事業を進めていただけるか確認する必要があると考えている。

【分科会長】

- ・基本として既存の交通機関を補完するものであり、新たに基幹交通を作るものではない。

【委員】

- ・支線交通の考え方に合っていないから選定しないのか、交通事業者と競合するため選定しないかでは、地元の方に説明するときに考え方が違うと思うので整理が必要である。

【事務局】

- ・手引書 P3 の将来のネットワークイメージを目指して施策を実施していく。
- ・本事業は、支線交通の位置付けのデマンド型交通であり、基幹交通を補完するものである。

【分科会長】

- ・事務局案で問題ないか。

【一同】

- ・ 総意。

＜一ノ宮の希望運行区域に係る協議＞

【委員】

- ・ 伊勢鉄道鈴鹿駅の要望はないか。

【事務局】

- ・ 伊勢鉄道鈴鹿駅の要望はなかった。
- ・ 地域の移動ニーズとして、四日市市の河原田駅のニーズがある。
- ・ 長期的には四日市市にも提案し、移動ニーズに対応する広域の移動手段を検討していく必要がある。

【委員】

- ・ 伊勢鉄道鈴鹿駅の要望がないのは、輸送力が弱い点に加え、かなりの高架駅でありながらバリアフリーではないことも一因かと考える。

【分科会長】

- ・ 広域で実施しても問題はないが、実現までに時間がかかるというのはある。
- ・ 本格運行時には、人の流れを考慮した考え方が必要となってくる。

＜石薬師・久間田の希望運行区域に係る協議＞

【事務局】

- ・ 石薬師地区は、行き先が分散している。
- ・ 平田町駅周辺の目的地は、バス、タクシーと競合するため削除となる可能性が高い旨を説明している。

【委員】

- ・ F マートやマックスバリュは区域外なので、タクシー程度の運賃となるのか。
- ・ 運賃の算出が難しいと思う。

【事務局】

- ・ 区域外の運賃は、タクシー運賃と同程度、区域内の運賃は、バスとタクシーの間程度の運賃設定が適切であると考えている。

【分科会長】

- ・ネットワーク強化の観点から平田町駅に限り、停留所の設置を認めてはどうか、という意見について委員各位はどう思われるか。

【委員】

- ・平田町駅周辺の目的地は削除いただきたい。

【事務局】

- ・石薬師地区から、路線バス、四日市平田線に乗り継ぐことで、平田町方面にアクセスすることができる。
- ・当該路線の停留所は、待合環境が整っていないため、乗り継ぎ利便を上げるためには、路線バスに接続する場合の乗合タクシーの運賃を安くすることが考えられる。
- ・路線バスへの乗り継ぎの必要性から、運送サービスとしては不便だが、安価に平田町周辺に行くことができるような実証運行を実現することが望ましいと考えている。
- ・平田町駅に限り、直接乗り入れをできないかという提案については、路線バスの運行本数が限られており、バスが運行していない時間に限り、デマンド型交通で乗り入れを行うことによるネットワーク強化が一つの考え方である旨を交通事業者からアドバイスいただいたため、本日、提案させていただいた。

【分科会長】

- ・バスがない時間帯はバスよりも高い運賃だが、その時間帯に走行する方法もあるので、本格的に運行となった場合には、そのような方法を検討しても良いのではないか。

＜庄内・椿・鈴峰の希望運行区域に係る協議＞

【事務局】

- ・運行区域の変更はなしとしたい。

【委員】

- ・C-BUS と競合しているのではないか。

【事務局】

- ・本事業は、デマンド型交通の実証運行であり、将来、本格運行を行う際には、C-BUS との役割分担等の協議が必要になると考えるが、本事業の実施にあたっ

ては、C-BUS との競合はないものとして整理している。

- ・他市では路線バスやコミュニティバスの見直しの観点から、デマンド型交通を運行する社会実験を行う事例もあるが、本事業ではバスの見直しとの組み合わせではなく、公共交通空白地域等の移動に課題がある地域のニーズ対応に向けて、デマンド型交通を実験的に運行するものである。

【分科会長】

- ・運行エリアが広域であるため、サービスレベルの低下が懸念される。
- ・当該地域から、目的地まで距離・時間がかかるため、C-BUS にうまく接続することも検討しなければならない。

＜玉桜の希望運行区域に係る協議＞

【事務局】

- ・高低差のある団地がある地域ではあるが、交通事業者の営業エリアと競合している。

【委員】

- ・資料に記載のタクシー補助券とは何か。

【事務局】

- ・市が、利用者のタクシー運賃の一部を財政負担することで、タクシー運賃の負担軽減やタクシーの利用促進に繋がらないかという提案をいただいたことから、タクシー補助券と記載している。

【分科会長】

- ・全国の事例としては、チケットを配る方法以外にも様々な手法がある。
- ・例えば、利用者に一定額の負担を求め、差額を行政が負担して、タクシー事業者にメーター運賃を支払うことができれば問題はない。
- ・補助券等のチケット方式にこだわる必要はない。

【事務局】

- ・資料 3-3 に基づき説明。
- ・別途書面にて意見を聴取する。

3 その他

【事務局】

- ・ 2/22 に「公共交通の賢い使い方」講演会開催予定。
- ・ 本日は運行区域についてたくさんのご意見をいただきお礼申し上げます。
- ・ 次回の交通会議は例年通りだと 3 月開催予定だが、報告事項のみで審議事項がないことや、F1 が春に開催されることで委員全員の日程調整が難しいことから書面開催を考えている。

以上 16 時 00 分終了